

アイヌ口承文芸「散文説話」 —人間の女に惚れたフリを殺した男—

大谷洋一

- 目次 1 まえがき
2 アイヌ語テキストと対訳
3 日本語テキスト

Key Words アイヌ口承文芸 (Ainu oral literature)、ウウェベケレ (Uwepeker)、Iskar (イシカラ)、フンペ (Humpe)、フリ (Huri)

1 まえがき

本稿で紹介するテキストは、沙流郡平取町字ペナコリ出身の上田トシ氏（1912～2005年）が伝承していた、アイヌ語沙流方言などでは「ウウェベケレ uwepeker」と呼ばれる「散文説話」というジャンルの物語である。本編のアイヌ語と日本語による口演は、2004年3月16日に上田氏の自宅で筆者が採録した⁽¹⁾。上田氏自身は、姉の木村キミ氏（1900～1988年）から1986年以降に伝え聞いた物語であると述べている。

上田氏によると、この物語の口演は2004年2月15日に平取町で開催された「第15回シシリムカアイヌ文化祭」での舞台が最初である。上田氏は、口演を依頼された際（月日は不明）にイベント主催者側から「舞台での口演時間は15分程度にしてください」という依頼があったため、自宅において物語内容を簡素化する語り口を繰り返し練習してから、舞台上で口演したものであると言われた。上田氏は、様々な機関から頼られて口演することは嬉しいが、ウウェベケレを簡素化するのは、とても困難であることを筆者に述べていた。それは、物語中からの場面を省いてまとめるべきなのか、という語り手としてのジレンマに陥る作業であったと推測される。

本編のアイヌ語口演時間は19分48秒であり、時間的には上記のイベントで語られた内容とあまり違いはないだろうと思われる。簡素化されていない本来の語りであれば、カムイとアイヌの関係性がより詳細に語られていた可能性もある。しかし、筆者は本編を簡素化しないで

語る口演の再録を失念していたため、比較資料が得られなかったことは、今更ながらであるが残念である。

ただし、本編は他ではあまり語られることの少ない巨鳥の「フリ」⁽²⁾が登場する散文説話として貴重な資料である。

あらすじ

「石狩の上流に私は両親と暮らしていた若者です。父は私に『私は年老いて行くことが出来ないが、石狩の中流に住む友人に娘がいるから、嫁にもらって来い。』と言ったが、私は忙しいので行かないでいた。父が強く言うので私はお土産を持って中流の村へ行った。しかし、中流に住む老人の家に娘はいなかった。老人の説明では、『石狩の河口では毎年クジラが上がるので、その解体の手伝いのために石狩河口の長者のところへ手伝いに行っていない。』と言った。私は様子を見るために石狩河口に向かった。石狩河口の長者はクジラの肉の美味しい部分は自分の家に運び、手伝いに来た者には美味しくない部分の肉を分配していた。私はその長者にそのことを叱ると改心して手伝いに来た人に平等に肉を分配するようになった。私は石狩の中ほどに住む老人の家に帰った。私が着ていたような衣服が物干し竿にかかっているのが変だと思いながら、神窓から家の中を覗くと、私になりすました男がいた。私は化け物だと思ったので、その背中に矢を放った。するとその男は大きな鳥のフリの姿になり、翼をバタバタさせてもがいた。老人と奥さんが驚いてる間に私はそのフリを叩きながら家から引きずり

大谷洋一：北海道博物館アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

(1) 旧北海道立アイヌ民族文化研究センターにおける資料番号はCC001228（保存用資料番号はCC900564）。この音声資料の公開は2019年度に予定している。

(2) 上田氏によれば、「タカにもいろんな種類があって、一番大きいのがフリだ。」という旨で説明された。

出して罵りながら叩いた。それから家に入って私は食事をして横になると夢を見た。上座に顔色の黒い背の低い男が次のように話した。『若者よ。お前が結婚しようとした女を俺が欲しくなったので、殺して魂を奪うつもりであったが、今は他の神々から怒られている。お前がその女と結婚しろ。私は諦めた。』朝になり、私はフリに罵りながらゴミと一緒に燃やした。夢見の話を老人にしたところ『この若者のおかげで娘は殺されずにすんだ。』と私に感謝したので、私は『あなたの娘を妻にしたいので来たのです。』と言うと、老人は喜んで娘を妻にさせてくれた。しばらくその家にいて、山へ行ってシカやクマを獲って老人に与えると、老人はとても喜んでくれた。私は妻を連れて石狩上流の自宅へ帰って、今回の旅で体験した事を父に話すと父もフリを罵った。私の妻は子供をたくさん産み、石狩中流の長者とお互いに交流した。私は子供たちに『悪い根性を持たないでお互に行き来しなさい。』とよく言い聞かせて歳をとったのである。』と一人の男が話した。

謝辞

本稿の作成にあたって、査読して下さったお二人の先生及び同僚の大坂拓氏から多くの改善点の指摘を受けることができました。記して心から感謝申し上げます。

〈アイヌ語テキストの凡例〉

(1) 本文の構成

二段組として、一段ごとにアイヌ語による語りはカタカナとローマ字の順で表記した。その下に日本語訳を記し、注記は各ページの下に記した。

(2) カタカナの表記

基本的に北海道ウタリ協会発行の『アコロ イタク』の表記の仕方と同じである。ただし音節末の r はそのときどきで、ラ、リ、ル、レ、ロ、に近い音が出たり、母音が付いたりする場合があるので、それが比較的目立つ場合はその近い音を記した。また、言いさしや特に意味をなさない言いよどみは () で括った。聞き取りや解釈の難しい単語の後に (?) を付した。

音素交替によって変化した音はそのとおりに記した例：「ポン セタ」→「ポイセタ」。

(3) ローマ字の表記

基本的に『アコロ イタク』と同じ方式で記した。日本語の場合は全て大文字で記した。音素交替を起こしたところは、単独で発した場合の形で記した。例：「poyseta」→「pon seta」。

地名の語頭は大文字を記した。よく聞き取れない音や意味の解釈が不確実な語句については、そのローマ字の

語尾に「??」を付けた。

(4) 対訳の [] 内表記

日本語の意味として読解しにくい箇所は、註あるいは [] 内にことばを補った。

(5) 参考文献は以下のとおりであり、本編の注釈内では [] にそれぞれの頭文字を記した略号として用いた。

[奥]奥田統己編 1999. アイヌ語静内方言文脈つき語彙集 (CD-ROMつき). 札幌学院大学人文学部.

[萱]萱野茂 1996. 萱野茂のアイヌ語辞典. 三省堂.

[久]久保寺逸彦 1994. 平成3年度 久保寺逸彦 アイヌ語収録ノート調査報告書 (久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿). 北海道文化財保護協会・北海道教育庁生涯学習部編.

[コ]国立大学法人千葉大学 2015. アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブに関する調査研究事業第2年次 (北海道沙流郡平取町) 調査報告書1/3.

ジョン・パチラー 1981. アイヌ・英・和辞典 第四版. 岩波書店.

田村すず子 1991. アイヌ語音声資料 (1~6) 語彙 上巻. 早稲田大学語学教育研究所.

田村すず子 1992. アイヌ語音声資料 (1~6) 語彙 中巻. 早稲田大学語学教育研究所.

田村すず子 1993. アイヌ語音声資料 (1~6) 語彙 下巻. 早稲田大学語学教育研究所.

[田]田村すず子 1996. アイヌ語沙流方言辞典. 草風館.

[中]中川裕 1995. アイヌ語千歳方言辞典. 草風館.

[安]安田千夏 2015. 上田トシの伝承1. アイヌ民族博物館.

2 アイヌ語テキストと対訳

イシカラ エトコホ タ
Iskar etokoho ta
石狩の上流に
アオナ アン アウヌ アン ヒネ
a=ona an a=unu an hine
私の父母がいて
オカアン ペ ネ ワ シネ イポネプ
oka=an pe ne wa sine ipone p
暮らしていて、一人の息子が
アネ ヒネ アオナ ウタラ
a=ne hine a=ona utar
私であって、私の父たちを
カシ アオイキ コロ アナン ペネ
kasi a=oyki kor an=an pe ne
の世話をしながらいた。
(アパ) アオナハ エネ ハウエアニ (エ、ン)
a=onaha ene hawean hi
私の父がこのように話した。
イシカラ ホントモ タ
Iskar hontomo ta
「石狩の中流に
アトクイエ コロ クル アン ペ ネ ワ
a=tokuyekor kur an pe ne wa
私の友人がいて
ベウレアン ヒ タ アナクネ
pewre=an hi ta anakne
私が若いときには
ウコパヨオカアン ペ ネ ア コロカ
ukopayoka=an pe ne a korka
お互いに行き来していたのであるが
タネ アナクネ オンネ ネマヌプ
tane anakne onne ne manu p
今では歳をとったので
アコキロニウケシ ワ
a=kokironiwkes⁽³⁾ wa
私はそちらへ向かうことも出来ないで
アプカサン カ ソモ キ
apkas=an ka somo ki
私は歩きもしない

イコアプカシ カ ソモ キ ノ
i=koapkas ka somo ki no
私に対して彼も来ないで
オカアン ルウェ ネ
oka=an ruwe ne
いたのである。
ネ セコロ アオナ ハウエアニ コロ オラ
ne sekor a=ona hawean kor ora
と、私の父が話しながら
オロ タ トウ マツネポ コロ
oro ta tu matnepo kor
「そこに二人の娘を持っている
クル、ネ アクス
kur, ne a kusu
人であったので
ネイタ カ エアラパ ワ (エメ、)
ney ta ka e=arpa wa
いつか、お前が行って
エマテトゥン ヤク ピリカ セコロ
e=matetun⁽⁴⁾ yak pirka sekor
お前が妻にしたらいい。」と
アオナハ イイエ ランケ コロ
a=onaha i=ye ranke kor
父が私にいつも言いながら
アナン ヒケ カ モナサパン ワ
an=an hike ka monasap=an wa
いたけれども私は忙しいので
アラパアン カ ソモ キ ノ
arpa=an ka somo ki no
行かないで
アナン ペ ネ ア コロカ
an=an pe ne a korka
いたのですが
アオナ エイタサ
a=ona eytasa
私の父があまりにも
イイエ ルイ カ キ ヒ クス オラ
i=ye ruy ka ki hi kusu ora
私に強く言うので
アラパアン クナク アラム クス
arpa=an kunak a=ramu kusu
私は行こうと思ったので

(3) 上田氏の日本語の語りでは、この場面の個所を「クコラニウケシku=koraniwkes (私は出来なくなった)」と発音している。[田]のp335に「korayniwkes コライニウケシ…することができない気がする。」と記載あり。

(4) 実際には「エメ、マテトゥン」のように言いよどんで聞こえる。

ネ オンネクル カシ アオセ クス
 ne onnekur kasi a=ose kusu
 その老人のお土産にするために
 サッカム ネ ヤ フカム ネ ヤ
 satkam ne ya hukam ne ya
 干し肉とか生肉とか
 (ア) ムイエヘ アカラ ヒネ
 muyehe a=kar hine
 私は東ねて
 ポロ シケ ネ アキ ヒネ
 poro sike ne a=ki hine
 大きな荷物を作って
 サナン (咳払い) ルウェ ネ アクス
 san=an ruwe ne akusu
 下りて行くと
 ソンノ カ イシカラ ホントモ タ
 sonno ka Iskar hontomo ta
 本当に石狩の中ほどに
 インネ コタン アン ヒネ
 inne kotan an hine
 大きな村があつて
 コタン ノシキ タ (咳)
 kotan noski ta
 村の真ん中に
 (ウン) ウンクル ネ ヤク アイェブ ネ クス
 un kur ne yak a=ye p ne kusu
 いる者であると言われていたので
 ソイ タ シリキクキクアン ルウェ ネ アクス
 soy ta sirkikkik=an ruwe ne akusu
 外で私が辺りを叩いて来訪を知らせると
 ルプネマツ ソイエネ イヌカラ ヒネ オラ
 rupnemat soyene i=nukar hine ora
 老女が外に出て私を見て
 アフン ヒネ アプ オラ
 ahun hine a p ora
 〔家に〕入って
 アナニ イェ ワ ネ ノイネ
 an=an hi ye wa ne noyne
 私が〔外に〕いたことを言ったらしく
 ソカラ フム アサクス オラ スイ
 sokar hum as akusu ora suy
 床掃除をする音がすると再び
 ソイエネ ヒネ イアフンケ クス
 soyene hine i=ahunke kusu
 外に出て私を入れるために

イイエ ヒ クス アフナン ヒネ
 i=ye hi kusu ahun=an hine
 招いたので私は〔家に〕入って
 アペ エトク タ ソカラ ワ アン ヒネ
 ape etok ta sokar wa an hine
 上座にゴザを敷いて
 アン ヒ クス オロ タ (ア) アアン
 an hi kusu oro ta a=an
 あつたのでそこに私は座った。
 アシケヘ カ アセ カネ ヒネ
 a=sikehe ka a=se kane hine
 荷物も私は背負ったままで
 アフナン ヒネ アペ エトク タ
 ahun=an hine ape etok ta
 入って上座に
 アナン ルウェ ネ アクス インカラン
 an=an ruwe ne akusu inkar=an
 いると私は見た。
 オンネクル カ アン ヒネ オラ
 onnekur ka an hine ora
 老人もいて
 ネ オンネクル イエランカラブ ヒ クス
 ne onnekur i=erankarap hi kusu
 その老人が私に挨拶したので
 アエランカラブ カ キ
 a=erankarap ka ki
 私も挨拶する
 ルウェ ネ アクス オラ
 ruwe ne akusu ora
 とそれから
 ヒナク ワ エククル ア⁽⁵⁾ネ ルウェ ネ ヤ
 hinak wa ek kur a=ne ruwe ne ya
 「どこからあなたは来たのですか？」
 イコウェペケンヌ ヒ クス
 i=kowepekennu hi kusu
 私に訊ねたので
 イシカラ エトコ ワ エクアン (ペ) ヒ
 Iskar etoko wa ek=an hi,
 石狩の奥から来たことを
 アイェ ルウェ ネ アクス
 a=ye ruwe ne a kusu
 私が言うと
 エアラキンネ (イク) イコヤイライケ ヒ イェ
 earkinne i=koyayrayke hi ye
 本当に私に感謝する事を述べた。

(5) 通常の質問文での人称接辞は「エ e=」であるが、ここでは敬意の二人称「ア a=」を用いたのだろうか。不詳。

ペウレアン ヒ タ アナクネ
pewre=an hi ta anakne

「私が若い時には

ウコアプカシ (ペ) ア コロカ
ukoapkas a korka

お互いに往来したものだっただけ

タネ ネ アナクネ オンネ ネマヌプ
tane ne anakne onne nemanu p

今となつては年老いて

アコキロニウケシ ワ
a=kokironiwkes wa

私はそこへ向かうことも出来ないで

ウタシパ ウコアプカシ カ
utaspa ukoapkas ka

お互いに行き来も

ソモ キ ノ オカアン ペ ネ ア プ
somo ki no oka=an pe ne a p

しないでいたものであったが

ポホ エネ ハウエ ネ ワ セコロ
poho e=ne hawe ne wa sekor

彼の息子があなたですね。」と

ハウエアン コロ エアラキンネ
hawe an kor earkinne

言いながら本当に

(イルイ) アコッカサパ ルイルイパ コロ
a=kokkasapa ruyruypa kor

私のひざ頭をなでながら

(エ) イエヤイコブンテク コロ
i=eyaykopuntek kor

私のことを喜ぶと

アナン ラポッケ ネ
an=an rapokke ne

私がいた間にその

ルプネマツ スケ ヒネ イコイプニ ワ
rupnemat suke hine i=koyipuni wa

老女が料理して私によつて

イペアン カ キ コロカ (ネ マツネポホ)
ipe=an ka ki korka (ne matnepoho)

食事をしたけれども、[言いさし]

イペアン カ キ ヒ クス
ipe=an ka ki hi kusu

私が食事したので

マツネポホ オカイペ ネ ヤク アイェ ア プ
matnepoho okay pe ne yak a=ye a p

娘がいるものだと言われていたが、

ヒナクン パイエ ヒネ マツネポ ウタラ
hinakun paye hine matnepo utar

「どこに行つて娘たちが

(イカン) イサム ルウエ ネ ヤ
isam ruwe ne ya

いなくなつてしまったのか？」

ウウエベケンヌアン ルウエ ネ アクス
uwepekennu=an ruwe ne akusu

私が訪ねると

ネア オンネクル エネ ハウエアニ
nea onnekur ene hawean hi

その老人がこうのように言った。

イシカラ プトゥフ タ
Iskar putuhu ta

「石狩の河口に

インネ コタン アン ワ ネ
inne kotan an wa ne

大きな村があつて、

ペ ネ コロカ イシカラ プトゥフ ウン
pe ne korka Iskar putuhu un

ものだけでも石狩河口に

タア フンペ ヤン ワ
taa humpe yan wa

すぐそこにクジラがあがつて

ケシ パ アン コロ フンペ ヤン ヒネ
kes pa an kor humpe yan hine

毎年、クジラがあがつて

ネ フンペ チャ クス
ne humpe ca kusu

そのクジラを解体するために

アマツネポ ウタラ カ イカスイ クス
a=matnepo utar ka ikasuy kusu

私の娘たちも手伝いのために

サプパ ワ イサム ルウエ ネ コロカ
sappa wa isam ruwe ne korka

浜に下りてしまったのだけれども

ネ イシカラ プトゥ ウン ニシパ
ne Iskar putu un nispa

その石狩河口の長者は

エアラキンネ ウエイサンペコロクル ネ ヒネ
earkinne weysanpekor kur ne hine

本当に根性が悪い者でして

ピリカ ウシケ アナクネ オピッタ
pirka uske anakne opitta

良いところは全て

ウニ ウン ルラヤラ ワ オラ
 uni un rurayar wa ora
 家に運ばせてから
 イカスイ ウタラ アナクネ エウン
 ikasuy utar anakne eun
 手伝いの人たちに
 ウェン ウシケ ウイペヘ ネ ペコロ
 wen uske uypehe ne pekor
 悪いところの屑のように
 オカイ ペ パテク (コロ・・・)
 okay pe patek
 あるものばかり・・・
 エウンケライ アマツネポ ウタラ カ
 eunkeray a=matnepo utar ka
 をもらう。私の娘たちも
 キ ワ ホシッパ ルウェ ネ コロカ
 ki wa hosippa ruwe ne korka
 そうして帰って来るけれども
 (アム、ン) アマツネポ ウタラ カ
 a=matnepo utar ka
 私の娘たちも
 イコイトウパ プ パ (パ) プ ネ クス
 ikoytupa p pa p ne kusu
 暮らしに困っているの
 イカスイ エサプ ワ イサム
 ikasuy esap wa isam
 手伝いのために浜に下りていない
 ルウェ ネ セコロ ネ オンネクル
 ruwe ne sekor ne onnekur
 のです。」とその老人が
 ハウェアン ヒ クス (ヤ、イ)
 hawean hi kusu
 話したため
 ラポッケ イペオケレアン カ キ ヒ クス
 rapokke ipeokere=an ka ki hi kusu
 その間に私は食事を終えたので
 ヤクン サナン ワ インカラン クス ネ
 yakun san=an wa inkar=an kusu ne
 「それなら私が浜に下りて見えます。」
 セコロ ハウェアナン ルウェ ネ アクス
 sekor hawean=an ruwe ne akusu
 と私が言うと、

ネ ピリカ ヤク オンネクル ネ オラ⁽⁶⁾
 ne pirka yak onnekur ne ora
 その老人が「いいよ。」と言った。
 サナン ルウェ ネ アクス ソンノ カ
 san=an ruwe ne akusu sonno ka
 私が浜に下りると本当に
 イシカラ プトゥフ タ
 Iskar putuhu ta
 石狩河口に
 サナン ルウェ ネ (アソイ)
 san=an ruwe ne
 私が浜に下りると
 インネ ウタラ オカ ヒ クス オラ
 inne utar oka hi kusu ora
 大勢の人たちがいたので
 パイネ (?) ⁽⁷⁾ネ イシカラ プトゥフ ウン
 payne?? ne Iskar putuhu un
 石狩河口の
 ニシパ (アア・・・) ネ ヤク アイェクル エウン
 nispa ne yak a=ye kur eun
 の長者であるという者へ
 アコオンカミ カ キ ヒネ
 a=koonkami ka ki hine
 私は挨拶をして
 オラ イカスイアン コロ
 ora ikasuy=an kor
 それから私は手伝いながら
 アナン ルウェ ネ アクス
 an=an ruwe ne akusu
 いると
 ソンノ カ ピリカ ウシケ アナクネ
 sonno ka pirka uske anakne
 本当に良いところは
 オピッタ ウニ ウン ルラヤラ ワ オラ
 opitta uni un rurayar wa ora
 全て家に運ばせて
 ウイペヘ ネ ペコロ オカイペ パテク
 uypehe ne pekor okaype patek
 屑のようなところばかり
 イカスイ ウタラ コロパレ コロ アン
 ikasuy utar korpore kor an
 手伝いの人たちに与えていた

(6) ここは「ネ オンネクル ピリカ ヤク イェ ヒネ オラ ne onnekur pirka yak ye hine ora」と言おうとしたのではないかと推測して翻訳した。
 (7) 不詳。

(エ) アエコヌコシネ カ キ ヒ クス
 a=ekonukosne ka ki hi kusu
 私は憎しみをいだいたので
 マカニ クス エネ イキ ヒ ネ ヤ
 mak an hi kusu ene iki hi ne ya
 「どうしてこのようにするのか？」
 ピリカ ウシケ ウニ ウン ルラ オラ
 pirka uske uni un rura ora
 良いところは家に運んで
 ウイペヘ ネ ペコロ オカイペ パテク
 uypehe ne pekor okaype patek
 屑のようなものばかりを
 イコヌコシネ ウタラ コロパレ ヒ (ヒ)
 ikonukosne utar korpare hi
 憎む人たちに与えることは
 ピリカ ルウェ ネ ヤ
 pirka ruwe ne ya
 良いことなのか？
 アイヌ パテク イコンルスイパ ヒ カ
 aynu patek ikonrusuypa hi ka
 人間ばかり欲しがることでも
 ソモ ネ カムイ ネ ヤッカ
 somo ne kamuy ne yakka
 ない。神様であっても
 コンルスイパ クス イカスイ クス
 konrusuypa kusu ikasuy kusu
 欲しいから⁽⁸⁾手伝いのために
 アラキパ ルウェ ネ プ エネ アン (イマ)
 arkipa ruwe ne p ene an
 来たのに、こんな
 イメク ヒナク タ アン ペ ネ
 imek hinak ta an pe ne
 分配の仕方がどこにある
 ルウェ ネ ヤ アイェ コロ
 ruwe ne ya a=ye kor
 のか！」と私は言いながら
 ネ イシカラ プトウ ウン ニシパ
 ne Iskar putu un nispa
 その石狩河口の長者を
 アコパシロタ ネ ヤ アコチャランケ ネ ヤ
 a=kopasrota ne ya a=kocaranke ne ya
 私が罵ったり、口論したり
 キ コロ アナナイネ キ アクス オラ
 ki kor an=an ayne ki akusu ora
 したあげく、すると

ネ イシカラ プトウ ウン ニシパ (ヤ)
 ne Iskar putu un nispa
 その石狩河口の長者は
 モシマノ アン アイネ オラ
 mosmano an ayne ora
 黙っていたあげく、それから
 ヤユナシケ コロ オラ オラ エアシリ
 yayunaske kor ora ora easir
 謝ってから、はじめて
 ピリカ ウシケ カ ウェン ウシケ カ
 pirka uske ka wen uske ka
 良いところも悪いところも
 ウパクノ ウネノ (オ) イカスイ ウタラ
 upakno uneno ikasuy utar
 同じくらいに同じく手伝いの人たち
 エウン コロパレ ヤイカタ カ
 eun korpare yaykata ka
 に与えた。自分も
 ウェヌシケ ピリカ ウシケ
 wen uske pirka uske
 悪いところと良いところを
 (イ、ヤイ) ヤイコイメク ヘ キ ワ
 yaykoimek he ki wa
 自分でも分けたりして
 アクス オラ イカスイ
 akusu ora ikasuy
 すると、それから手伝いをする
 コタン コロ ウタラ
 kotan kor utar
 村人たちが
 エアラキンネ イコヤイライケ ヒ
 earkinne i=koyayrayke hi
 本当に私に感謝したことを
 イイエ ロク イイエ ロク パ コロ
 i=ye rok i=ye rok pa kor
 私にたくさん言いながら
 オピッタ ホシッパ ワ イサム クス
 opitta hosippa wa isam kusu
 全て帰ってしまったので
 ヤイカタ カ ホシピアン ヒネ (エ)
 yaykata ka hosipi=an hine
 自分も帰って
 ネ レウシアン チセ (コ、コタン)
 ne rewsian an cise
 その私が泊まる家、村、

(8) 「神さまであっても欲しいから」という表現は、肉を貰った村人が神にご馳走として料理してから捧げることを意味していると考えられる。

コタン コン ニシパ オロ タ

kotan kor nispa oro ta

村の長者のところに

エカン ネ チセ ソイ タ

ek=an ne cise soy ta

来た。その家に

エカン ルウェ ネ アクス

ek=an ruwe ne akusu

私が来ると

アエシピネプ ネノ カネ アン ペ

a=esipinep neno kane an pe

私の身につけているようなものがこのように

クマ カ アエオコクテ ワ アン

kuma ka a=eokokte wa an

干し竿から引っ掛けられていた

アオヤモクテ ヒナク ワ

a=oyamokte hinak wa

私は変だなと思った。どうして

アエシピネプ ネノ アン ペ エネ

a=esipinep neno an pe ene

私の身につけているようなものがこのように

クマ カ アエオコクテ ワ アン

kuma ka a=eokokte wa an

干し竿から引っ掛けられている

ルウェ アン セコロ ヤイヌアン ワ

ruwe an sekor yaynu=an wa

のだろうと思って、

アオヤモクテ カ キ ヒ クス オラ

a=oyamokte ka ki hi kusu ora

私はふしぎに思ったのでそれから

チセオカリアン ヒネ

ciseokari=an hine

私は家のまわりにおいて

ロルン プヤラ カリ

rorun puyar kari

神窓から

プヤラ アパオッキ オポソ

puyar apaotki oposo

窓のすだれを通して

インカラン ルウェ ネ アクス

inkar=an ruwe ne akusu

私が見ると

アペ エトク タ アエシピネプ

ape etok ta a=esipinep

上座に私の着ていたもの

ネノ カネ アン ペ エシピネ

nenokane an pe esipine

のようなものを着た

オッカヨ ヘマンタ カ イェ

okkayo hemanta ka ye

男が何か言い

ミナコタマタマ コロ

minakotamatama kor

お世辞笑いをしながら

ネ チセ コロ オンネクル コイソイタク

ne cise kor onnekur koisoytak

その家の老人に対して会話

(ア) コロ アン シリ イキ ヒ アナクネ

kor an siri iki hi anakne

しながらいる様子は

ネプ カ ウエンカムイ

nep ka wenkamuy

なにかの化け物が、

イシネレ ウエンカムイ

i=sinere wenkamuy

私になりすました化け物が

エク ワ アン ヒ (ヒ) ネ クニ

ek wa an hi ne kuni

来ているのであろうと

アラム ヒ クス オラ

a=ramu hi kusu ora

私は思ったので

アイ アサンケ ヒネ

ay a=sanke hine

矢を取り出して

セトゥルフ アシリコチョッチャ

seturuhu a=sirkocotca

その背中を私は矢をひょうと射た

ルウェ ネ アクス アペ エトク タ

ruwe ne akusu ape etok ta

ところ、上座に

ポロ フリ チカプ… (ラシ)

poro huri cikap…

巨大なフリの鳥が…

シポラポラ ライ (ホイ) ホチカチカ

siporapora ray hocikacika

翼をバタバタさせてひどくもがき

コロ アン ワ オラノ ネ

kor an wa orano ne

ながらいて、それからその

オンネクル ウタラ ネ ヤッカ

onnekur utar ne yakka

老人たちであっても

イマツネ プ ウタラ ネ ヤッカ

imatne p utar ne yakka

奥さんたちであっても

オカ ロク ウタラ ウコキマテクパ ヒ クス

oka rok utar ukokimatekpa hi kusu

いた人たちが驚いたので

ナニ アオシマテクアン ヒネ

nani awosmatek=an hine

すぐに家の中に飛び込んで

ネ チカプ アトイコキクキク ヒネ

ne cikap a=toykokikkik hine

その鳥を私はひどく叩いて

アニンパニンパ ネ ヤ ヒネ

a=ninpaninpa ne ya hine

ズルズル引きずって

エソイネ アニンパニンパ ヒネ

esoyne a=ninpaninpa hine

外に引きずって

ヒネ オラ ソイ タ (アア)

hine ora soy ta

それから外で

アタタタ アコパシロタ コロ

a=tatatata a=kopasrota kor

トントン叩いて罵りながら

ヘマンタ クス…、アエシピネプ

hemanta kusu…, a=esipinep

「なんのため私の着物を

エシピネ カ キ (イ) コロ

e=sipine ka ki kor

お前が着て

エチ、イ、コラム、ラマツテ (?) (エ)

eci=i=koramatte??

お前が人をあざむいて (?) ⁽⁹⁾

ヒ ネ ヤ セコロ アイェ コロ

hi ne ya sekor a=ye kor

いるのか！」と言いながら

アコパシロタ アコパシロタ

a=kopasrota a=kopasrota

私は罵りまくり

ルウェ ネ ヒネ オラ アフナン ヒネ

ruwe ne hine ora ahun=an hine

それから家に入って

オラ イペアン カ キ ヒネ オラ

ora ipe=an ka ki hine ora

私は食事をして

シンキアン カネ クス

sinki=an kane kusu

疲れたので

ホッケアン ルウェ ネ アクス

hotke=an ruwe ne akusu

私は横になって

ウェントラプアン ルウェ ネ アクス (ウ)

wentarap=an ruwe ne akusu

夢を見ると

アペ エトク タ ヌクンネ クス アン

ape etok ta nukunne kusu an

上座に顔色の黒い

ケウェラム ワ オケレ オッカヨ

keweram wa okere okkayo

背のとても低い男が

アン ヒネ (エ) エネ ハウェアニ

an hine ene hawean hi

いて、このように話した。

タン オッカイボ

tan okkaypo

「これ、若者よ

イタカン チキ ヌ ヤン ⁽¹⁰⁾

itak=an ciki nu yan

私が言うから聞きなさい。

アイヌ ヘタプ エネ ワ…

aynu hetap e=ne wa…

いったい人間なのか、お前が…

エエク ワ エアン ヤ カ

e=ek wa e=an ya ka

お前が来ていたのかも

アエラミシカリ ノ カムイ カ

a=eramiskari no kamuy ka

私が知らないで、神も

イコイパク ペ ネ クス

i=koypak pe ne kusu

私を罰するものだから

(9) 上田氏の日本語訳の語りでは、アイヌ語に対応する個所は「こういう悪さ、したんだ！」と述べられている。

(10) 実際の発音は「ネーヤ」のように聞こえる。

タネ エコロ クス ネ メノコ

tane e=kor kusu ne menoko

今、お前が結婚するはずの女

(アエ、エ・・・、ウェン・・・、エ)

(ae, e..., wen..., e)

〔言いさし〕

エコロ クス ネ メノコ

e=kor kusu ne menoko

お前が結婚するはずの女を

(アエ、ナンツタベ?)

(a=e, NANTTABE?)

〔言いさし〕

アコンルスイ カ キ ヒ クス

a=kor rusuy ka ki hi kusu

私が欲しかったので

タヌ克蘭ネ エクアン ワ

tanukuranne ek=an wa

今晚、私は来て

アライケ ワ ラマチ

a=rayke wa ramaci

殺して魂を

アウク (フ) フミ ネ ペコロ

a=uk humi ne pekor

取ってやるんだと

ヤイヌアン コロ エクアン

yaynu=an kor ek=an

思いながら来た

ルウェ ネ ア プ

ruwe ne a p

のであるが、

エネ カムイ イコイパク ペ ネ クス (イ)

ene kamuy i=koypak pe ne kusu

このように神が私を罰するものだから

イシリコチョツチャ ワ

i=sirkocotcha wa

私はひょうと射られて

ライアン ワ オラ カムイ オッタ

ray=an wa ora kamuy or ta

死んで神のところに

アラパアン アクス

arpa=an akusu

行くと

アイウココパシロタ ルウェ ネ コロカ (ア)

a=i=ukokopasrota ruwe ne korka

皆から叱り付けられたけれども

タネ テワノ アナクネ エネ アン

tane tewano anakne ene an

これからはこのような

ウェン ケウトウム アナクネ

wen kewtum anakne

悪い精神は

ソモ アコロ クス ネ ナ (アー)

somo a=kor kusu ne na

持たないつもりだ。

エコロ クス ネ メノコ トウラノ

e=kor kusu ne menoko turano

お前の結婚するはずの女と一緒に

エアン ヤク ピリカ アシヌマ アナクネ

e=an yak pirka asinuma anakne

お前がいればよい。私が

タネ (アイ) カムイ オッタ

tane kamuy or ta

今、神のところで

アイウココパシロタ ワ

a=i=ukokopasrota wa

神々の皆から叱られて

エネ ネ ヒ カ イサム クス

ene ne hi ka isam kusu

どうしようもないので

タネ アエヤイラムカラ⁽¹¹⁾ クス ネ ナ

tane a=eyayramikar kusu ne na

今、私はあきらめたぞ。」

セコロ ハウエアン コロ

sekor hawean kor

と言いながら

エアラキンネ イコヘポキキ (イー)

earkinne i=kohepokiki

本当に私に頭を垂れた。

ウェンタラプ アコン ルウェ ネ ヒネ

wentarap a=kor ruwe ne hine

その夢を私が見て

オラ イヨクンヌレアン カ キ コロ

ora iyokunnure=an ka ki kor

から、驚きながら

(11) [安]のp72、p186にはこの語形で上田氏が表現されている。[田]に「eyayramkar エヤイラムカラ ……したくてもできない／しないほうがいいのでしない、…するわけにもいかなないので敢(あ)えてしない、…をあきらめる。」と記され、[萱]では「エヤイラムキツカラ 【e-yay-ramu-kik-kar】諦める」と記されている。

オラ ニサッタ ホプニアン ヒネ
 ora nisatta hopuni=an hine
 それから明日は私が起きて
 (ネ コタン コロ) オロ タ レウシアン
 oro ta rewsu=an
 そこに泊まった
 オンネクル エウン タプネ カネ アン
 onnekur eun tapne kane an
 老人へこのような
 ウェンタラプ アコン ルウェ ネ ヒ
 wentarap a=kor ruwe ne hi
 夢を見たことを
 アイェ ルウェ ネ アクス エアラキンネ
 a=ye ruwe ne akusu earkinne
 私が言うと本当に
 イヨクヌヌレ ア イヨクヌヌレ ア
 iyokunnure a iyokunnure a
 とても驚いた。
 アコロ オッカイポ
 a=kor okkaypo
 「若者が
 エキサム ソモ キ ヤク アナクネ
 ek isam somo ki yak anakne
 来なかったならば
 タヌ克蘭ネ アマツネポホ (オ) アライケ
 tanukuranne a=matnepoho a=rayke
 今晚、娘は殺された。
 チカプ オロ ワ アライケ
 cikap oro wa a=rayke
 鳥に殺され
 (ヒ) ヒ ネ ナンコロ ペ
 hi ne nankor pe
 ていただろうに
 アコロ オッカイポ ピリカ ヒネ
 a=kor okkaypo pirka hine
 若者が立派に成長して
 エク クスケライポ アマツネポホ
 ek kusukeraypo a=matnepoho
 来てくれたお陰で私の娘が
 シクヌ ハウェ ネ セコロ アン
 siknu hawe ne sekor an
 生きることができたのだ。」と

ネ オンネ ウタラ ハウェオカパ コロ
 ne onne utar haweokapa kor
 その年寄りたちが話ながら
 イコヤイライケ イ イェ ロク イェ ロク
 i=koyayrayke hi ye rok ye rok
 私に感謝の言葉を何度も言い
 オラ クネイワ ネ ヤッカ
 ora kuneywa ne yakka
 それから朝になったが
 ネ アコパシロタ チカプ アナクネ
 ne a=kopasrota cikap anakne
 「あの私がこらしめた鳥は
 オハ チカプ ネ エウタンネプ ネ
 oha cikap ne eutanne p ne
 同じ鳥として夫婦になるものである。
 アイヌ アナクネ アイヌ
 aynu anakne aynu
 人間は人間と
 エウタンネプ ネ ヒケ マク アニ クス
 eutanne p ne hike mak an hi kusu
 夫婦になるものなのはどうして
 チカプ エネ ワ オラ
 cikap e=ne wa ora
 鳥のお前が
 アイヌ (ウ) ポン メノコ
 aynu pon menoko
 人間の娘に
 エヤイエカッカラ ハウェ ネ ヤ
 eyayekatkar⁽¹²⁾ hawe ne ya
 恋をするのか！」
 セコロ アイェ コロ アコパシロタ
 sekor a=ye kor a=kopasrota
 と言いながらこらしめ
 カ キ ヒネ オラ
 ka ki hine ora
 もしてから
 アコパシロタ アコパシロタ コロ
 a=kopasrota a=kopasrota kor
 叱り続けながら
 アトイコ、(ウ) コヌパ (アー)
 a=toykonupa
 土と共に掃き

(12) [田]のp152で「eyaykatekar エヤイカテカラ」であるが[安]のp68などでは「エヤイカッカラ eyaykatkar」とある。「アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ」にある上田氏による4例は「ヤイカッカラ yaykatkar」あるいは「ヤイエカッカラ yayekatkar」と聞こえる。上田氏はこの語形に揺れがあり、不詳。

(アコ、ムン) ムン アコフィカ

mun a=kouhuyka

ゴミと一緒に燃やし

ルウェ ネ ヒネ オラ エアシリ

ruwe ne hine ora easir

て、それから

タップネ カネ (ポン)

tapne kane

このように

ニシパ マツネポホ アコンルスイ カ

nispa matnepoho a=kor rusuy ka

長者の娘を〔嫁に〕欲しくて

キ ワ エクアン (ヒ) ルウェ ネ ヒ

ki wa ek=an ruwe ne hi

私が来たわけを

アイェ ルウェ ネ アクス

a=ye ruwe ne akusu

私が話すと

エアラキンネ ネ オンネクル

earkinne ne onnekur

本当にその老人が

エヤイコプンテク ヒネ オラ

eyaykopuntek hine ora

喜んでそれから

コタン コロ ウタラ カ

kotan kor utar ka

村人も

アタク ワ タプネ カネ ネ ワ

a=tak wa tapne kane ne wa

私が呼んで、このようにして

コタン コン ニシパ マツネポホ

kotan kor nispa matnepoho

村長の娘を

アエトウン ワ アトゥラ ワ (アー)

a=etun wa a=tura wa

私が嫁にして連れて

イシカラ エトコ ホシピアン クス ネ イ

Iskar etoko hosipi=an kusu ne hi

石狩上流に帰るつもりである

ネ ヒ コタン コロ ウタラ エウン カ

ne hi kotan kor utar eun ka

ことを村の人々にも

アヌレ カ キ ヒ オラ エアシリ

a=nure ka ki hi ora easir

言い聞かせ、それから

エキムネアン ワ ユク ネ ヤ

ekimne=an wa yuk ne ya

山に行ってはシカでも

カムイ ネ ヤ アライケ ワ

kamuy ne ya a=rayke wa

クマでも獲って

アコロ ワ イワクアン ルウェ ネ アクス

a=kor wa iwak=an ruwe ne akusu

持って帰ると

エアラキンネ オンネクル エヤイコプンテク

earkinne onnekur eyaykopuntek

本当に老人は喜んだ

(ウエ) ペウレ ヒ タ アナクネ

pewre hi ta anakne

「若い頃は

エネ (ア) ヌウェコ アン ペ

ene nuweko an pe

このように獲物に恵まれたもの

アネ ア プ コロカ

a=ne a p korka

であつたけれども

オンネ ネマヌプ

onne nemanu p

年老いた者は

アコライニウケシ⁽¹³⁾ ワ (ア)

a=korayniwkes wa

力もなくなって

カムイ カ ユク カ サラ ネットパケ⁽¹⁴⁾

kamuy ka yuk ka sara netopake

クマもシカも現れた姿を

アヌカラ カ エラミシカリノ

a=nukar ka eramiskarino

私は見ることもなく

アナン ルウェ ネ ア プ

an=an ruwe ne a p

暮らしていたものでしたが

エネ ユク カ カムイ カ

ene yuk ka kamuy ka

このようにシカもクマも

(13) 言いよんでいるために「アコリ、ニウケシ」のように聞こえるが、上田氏が発音しようとした語形を推測して筆者が記した。

(14) 「サラ ネットパケ sara netopake」の意味は、[コ]のp524に「現れた姿を」と記載あり。

アコロ オッカイポ

a=kor okkaypo

青年が

アコロ ヌサ オッタ コロ ワ エクテ

a=kor nusa or ta kor wa ekte

私の祭壇のところに持って寄こした。」

エアラキンネ オンネクル

earkinne onnekur

本当に老人が

エヤイコプンテク コロ オラ

eyaykopuntek kor ora

喜んで

トゥッコ レレコ (オ)

tutko rerko

二、三日

ウサ オカイベ (エ) アライケ ワ

usa okaype a=rayke wa

いろいろなものを殺して

イペ パ クニ (ン) エサンニヨ パ クニ ネ

ipe pa kuni esanniyo pa kuni ne

食べる算段がつくように

ネ ヒネ オラ ネ イマタクネ

ne hine ora ne imatakne

して、「妹の方の

ボン メノコ カ ナニ

pon menoko ka nani

娘もすぐに

ピリカ オッカイポ アエトゥン ワ

pirka okkaypo a=etun wa

良い青年の嫁にもらわれて

トゥラノ アン ワ オナウタリ

turano an wa onautari

一緒に暮らして父たちと

ウヌウタリ カシ オイキ ヤク

unuutari kasi oyki yak

母たちを養ったら

ピリカ セコロ アイェ コロ

pirka sekora a=ye kor

良い。」と私は言う

オラ、(ア) アホッパ ヒネ (エ)

ora a=hoppa hine

その人たちを残して

イサネ メノコ アトゥラ ヒネ

isane menoko a=tura hine

姉の方の女を私は連れて

エクアニネ アウニ タ シレパアン ヒネ

ek=an hine a=uni ta sirepa=an hine

来て、私の家に着いて

アオナウタラ エアラキンネ

a=onautar earkinne

私の父たちも本当に

エヤイコプンテクパ コロ

eyaykopuntek pa kor

喜びながら

オラノ トゥラノ オカアン ワ

orano turano oka=an wa

それから一緒に暮らして

タブネ カネ ネ ワ ナアニ

tapne kane ne wa naani

このようになって危うく

チカプ オロ ワ

cikap or wa

鳥から

アコロ クス ネ メノコ

a=kor kusu ne menoko

私の結婚するはずの女が

アライケ クス ネ ア コロカ

a=rayke kusu ne a korka

殺されそうだったけれども

サナン エカリノ ネ ワ

san=an ekarino ne wa

私が浜へ向かって行ったので

シクヌ ワ アトゥラ ワ エクアン

siknu wa a=tura wa ek=an

生きて私は連れて来た

ルウェ ネ ヒ アオナハ エウン

ruwe ne hi a=onaha eun

ことを父に

アイェ ルウェ ネ アクス

a=ye ruwe ne akusu

言ったところ

アオナハ カ イヨクンヌレ カ

a=onaha ka iyokunnure ka

私の父も驚いたり

パシロタ カ キ ルウェ ネ ヒネ

pasrota ka ki ruwe ne hine

罵ったりして

オラノ アナクネ

orano anakne

それからは

ネプ アエシリキラプ カ ソモ キ ノ
 nep a=esirkirap ka somo ki no
 なにも心配もなく
 オラノ スイ イラウケトゥパアン ワ
 orano suy irawketupa=an wa
 それからまた、仕事して
 オラノ オンネ ウタラ
 orano onne utar
 それから老人たちは
 イシカラ ホントモ ウン
 Iskar hontomo un
 石狩の中流に
 アオタヌカン ランケ オラ
 a=hotanukar ranke ora
 なんども様子を見に行き
 ペウレ ウタラ カ カシ オイキ
 pewre utar ka kasi oyki
 若者たちも、お世話する
 クニ ウタラ カ アコホッパ プ ネ クス
 kuni utar ka a=kohoppa p ne kusu
 べき人たちも残して来たので
 オラノ⁽¹⁵⁾ アナクネ イシカラ (プトゥ)
 orano anakne Iskar
 それからは石狩
 ホントム ウン ペウレ ウタラ
 hontom un pewre utar
 中流の若者たちが
 イコアプカシ カ キ
 i=koapkas ka ki
 私のところに来るし
 アコアプカシ カ キ ラポッケ
 a=koapkas ka ki rapokke
 私も行きながら
 (エ、ポ) ポコロ アン カ キ ヒ
 pokor=an ka ki hi
 私は子供も持って
 アオナ アウヌ ウタラ カ ヌカラ カ キ
 a=ona a=unu utar ka nukar ka ki
 私の父と母たちも見
 イシカラ ホントモ ウン ニシパ (ア)
 Iskar hontomo un nispā
 石狩中流の長者
 トウラノ アン ポン メノコ カ
 turano an pon menoko ka
 と一緒にいる若い女も

ポコロ カ キ ヒ オラノ (ウ)
 pokor ka ki hi orano
 子供を持ってそれから
 ピリカノ ウコアプカサン ワ
 pirkano ukoapkas=an wa
 よくお互いに行き来して
 ウコケウトウムピリカ ワ
 ukokewtumpirka wa
 お互いに精神が良くて
 (ア) ピリカ アオンネレ
 pirka a=onnere
 きちんと老後を見届けた。
 オンネ エトク タ (ア)
 onne etok ta
 死ぬ前に
 アシュウトホ ネ オンネ ウタラ カ
 a=siwtoho ne onne utar ka
 舅である年寄りたちも
 アピリカオンネレ ワ
 a=pirkaonnere wa
 きちんと老後を送らせて
 ヤイカタ アオナ ウタラ カ
 yaykata a=ona utar ka
 自分の父たちも
 アピリカオンネレ ルウェ ネ ワ
 a=pirkaonnere ruwe ne wa
 きちんと老後を送らせて
 オラノ アナクネ
 orano anakne
 それからは
 ネプ アエシリキラプ カ ソモ キ ノ
 nep a=esirkirap ka somo ki no
 何も心配事もないで
 ポシレシクテアン ワ
 posiresikte=an wa
 子供がたくさんできて
 オンネアン ルウェ ネ クス
 onne=an ruwe ne kusu
 私もういだったので
 アポ ウタラ ネ ヤッカ
 a=po utar ne yakka
 私の子どもたちであっても
 ピリカノ ウコパヨカ ロク (?)
 pirkano ukopayoka rok ??
 ちゃんとお互いに行き来して

(15)「ラノ rano」にも聞こえるが、上田氏が本来発音しようとした言葉を推測して筆者がこのように記した。

イテキ ウコウェイサンペコロパ ノ
 iteki ukowaysanpekor pa no
 悪い根性を持たないで
 ウコパイェオカ ワ
 ukopayeoka wa
 お互いに行き来して
 ウコケウトウムウェン ソモ キ ノ
 ukokewtumuwén somo ki no
 お互いに悪い根性を持たないで
 キ パ ヒ ヤク ピリカ ナ セコロ
 ki pa hi yak pirka na sekor
 いたら良いぞ。」と
 アポウタリ アコイタクムイエ コロ
 a=poutari a=koytakmuye⁽¹⁶⁾ kor
 私の子供たちによく言い聞かせて
 ヤイカタ カ オンネアン ペ ネ アクス
 yaykata ka onne=an pe ne akusu
 自分も歳をとったものであると
 アイェ セコロ シネ オツカイボ
 a=ye sekor sine okkaypo
 私は言ったと一人の青年が
 イソイタク セコンネ パクノ ネ
 isoytak sekor ne pakno ne.
 話したんだと。ここまで。

3 日本語テキスト

石狩のカッチ〔水源〕で、父親、母親、共に暮らして、ああっていた、若者〔わかもん〕の物語、なんだけど、〔咳払い〕一人息子で育て、両親〔りょうおや〕を、(お、やし、) 養っているうち、親言うのには、(い、) 「石狩の途中で、昔、(とし、) お互いの年寄り、年配いて、そこさ、行ったり来たりして、お互いにしたもんだっただけども、歳もいって、(いちゅ、) クコル、オンネ ネ マヌ クコヤイ、コ、ヤイクシ onne ne manu ku=koyaykus っていうのは、歳いっても、歩けなくなってしまってから、行きもしないでいたけど、そこで娘がいる、二人娘、いるはずだから、一人娘行って、え、嫁に貰え。」って言って、言って、父親が言っても、行く暇なくて、行かないでいたんだけど、あんまり親が言うから、行ってみると思って、干し肉やら生肉やら、まとめて、それ大きな荷物にして、石狩の、さが・・・、下がって行っただけ、きょむが(?)、大きな部落あって、その部落さ、い、ので、酋長さんだっていうの聞いていたから、外にノックしたけ、出て来たのは年寄り婆さん

で、自分さ見たけ、こんどまた戻って入って行ってから、「外にお客さん来てる。」って言ったようなふうしたけ、ちゃんと掃き掃除してから、まだ自分さ出て来て、〔咳払い〕「入りなさい。」って言うから、荷物背負ったまま入って行って、横ちゃ〔横座〕に座って、えー、挨拶したりなんかして、座ったけ、「どっから来た人だ？」って言うから、「こういうわけで、石狩のカッチから、来たんだ。」ったけ、「昔は覚え合って、行き行きしたもんだわ、人の息子だけど、だけど今はもう、お互いに歳がたって、行き来も出来なくていたもの、その人の息子、たな。」つって〔だな。〕と言って、すごい喜んで、涙落としながら自分さ、膝を撫でながら、自分さ喜んで、くれて、もう、持って行った土土産持たしたりしたら、もう、喜んで喜んで、え、と、歳・・・、歳には勝てなくてっていうのがその、オンネ ネ マヌ クコロ、クコ、ラニウケシっていうのは、クコラニウケシ ku=koraniwkes (私は出来なくなった) っていうのは、歳よ、歳いってかなわなくなったっていう、意味だからね。

(大谷) ふーん。

(上田) クコラ、ヤイ、ニウケシって、ね、ご飯、ごつつお〔ご馳走〕になったり、婆さんがご飯ごつつおになったりしても、その娘いるっていうの聞いたもの、娘らもないから、「娘らいるもんだっていう話聞いたもの、どこ行っただけ、いないの？」ったけ、その爺さん、言うのには、「石狩のテト〔出入り口〕に、い、部落で、毎年、クジラの肉、クジラ上がるんで、そこさ手伝いに娘らやら、みんなして、部落の人ら手伝いに行っても、すごい、その、(おー、) イシカラーのテトの人が、の酋長さんが根性の悪い人で、もう、ろくなものくれないで、いいとこばっかし自分の家さ運んで、ほんとの悪いとこ、クズしか、手伝いの人さ、くれてるんだけど、自分の娘らも、物に不自由してるもんだから、行ってないんだ。」っていうの言っただけ、「こんど、戻って来て、戻っててってからしたら、自分も行ってみるから。」ちゅって〔と〕言って、行って、その石狩さ、行っただけ、プトウフ putuhu (河口) さ行っただけ、ほんとに、その、大勢の人が手伝いして、そこさ〔咳払い〕行っただけ、案の定その、いいとこは酋長さんの家さ運んで、クズばかり手伝いの人らにくれていたの見て、挨拶したりしてしまってから、してっただけ、たま、たまげただけその、「どういうわけで、その一、いいとこは自分の家さ運んで、手伝いの人らさ、おかしいクズしかやるんだ？」って、「人間ばかし物欲しいんでない、人間も神さんも物の欲しい、(い、) 食べたいのはみんな同じだの

(16) 実際には「アコイト、ムイエ」と聞こえるがこのような言い方だったのであると判断して記した。

に、どういうわけでそういう物の分け方するんだ？」ちって〔と言って〕、こんど自分、悪く言って言って、あれしたけ、初めてその、もう、意地悪い爺さん、「悪かった。」って、「自分が悪かったから、これからそんなことしないから。」っていうことと言って初めてその、クジラの肉を、みんな、ぶら〔部落の言いさし〕、手伝いの人らさ、同じく、悪いところも良いところも、同じく分けて、くれたんで、それから、みんな喜んで、帰ってしまったから、こんど自分も、戻って来てその、泊まる一って言った、(あ、) 家さ戻って来て、外さ来たけ、自分の、まかない〔着物〕、そっくりのまかない、い、こう縛り付けて、干し竿から引っかけて、クマ kuma (物干し棒) っていったらその干し竿のことだ。干し竿から引っかけてあるから、だから不思議だと思って、家のぐるわ〔周り〕回って、(へ、) 窓からひょっと覗いて見たけ、家の中にも自分のまかないそっくりなもの、まかなった〔着た〕男が、何か話して笑いながら、話していたって見たから、これは何か化け物が自分にこう、化けて来たに違いないと思ってこんど、弓出して背中ぶち込んだけ、大きな、あ、タカ〔巨鳥フリのこと〕、炉縁に羽広げて、パタパタパタパタ、もだえたけ、もう、(みんな、) その年寄り夫婦、若い娘らもいたのびっくりして、あれしたけ、それからこんど自分も、すぐ家さ、飛び入って、すぐ、その鳥、ぶっ叩き殺して、外さひこずって〔引きずり出して〕、外さ持っててこんど、悪く言いながら、「なんのためにその、自分に化けて、自分のまかないそっくりまかなって、こういう悪さしたんだ。」って悪く言って言って、(いー、) その、鳥みんな片付けてしまってから、家さ入ってご飯ごつつおになって、休んだりなんかして寝たけ、夢見たけ、背の低い、色のご黒い男、炉縁に座ってて、いて、うんと〔すごく〕、たまげて、たまげて、(いや、た、)「あんた人間だべか？ 神さんだべか？ その来ていたのも自分知らないで、自分来て、え、その自分がその、ほ、貰うっていう娘、自分も欲しくて欲しくて、から、自分、化けて来て、その娘を今晚殺して、魂を持って行けるもんなりして、来たから、そのまかないも全部、化けて支度したものを、来ていたのも知らないでこういう、悪いさを自分、持ったのは、神さんの罰に、罰与えられて、あれしたんだってということで、(え、) 神さんにも、もう怒られて、怒られて、自分来たけども、これからこういう悪いことは、しないから、その娘連れて行って、幸せに暮らしてくれ。」っていう、夢見たんでこんど、たまげて、たまげて、明日の朝起きてから、また、こういう夢見た話言っただけ、たまげて、たまげて、「鳥は鳥で結婚する、人間は人間同士でお互いに、結婚するもんだのに、そんな鳥の邪魔こいて、人間の娘欲しいっていうこと、もっ

てのほかだ。」って言って、悪く言って言って、から、こんど、その親になる人らの、「ありがたい、その若者が来たから、おかげで、娘助かったけど、来なかったら、殺されて、に、て、鳥に、なったに違いないのに助けてもらった。」って、すごい喜んでもらって、から、こんど、(かた、) 片付けたり悪く言ったり、「人間、は人間同士で結婚する、鳥は鳥同士で結婚せ。」って悪口言いながら、片付けてしまってから、また山行って、クマやらシカやら獲って帰ってきたけ、その爺さん、「若い時は獲ってもの、クマ、シカだったけど、歳いってからは、こういうことも出来なくなったもの、ありがたい。」って、すごい喜んでくれて、から、こういうわけで娘も、欲しさに来た話言っただけ、喜んでくれて、あの部落の人らも呼んで、娘貰って、結婚して、自分の石狩のカッチさ、帰ること、部落の人らにも、聞かしたり、見てもらったりして、行くから、みんなに喜ばれてから初めて山行って、クマ、シカ獲って、持って帰って来て、その一、年寄りらに見したり、喜んでもらったりして、からこんど、何日もこうやっていられないからって、娘貰ったことにした娘、連れて自分の家さ戻って来て、こういうこのわけで、来た話、親さ言っただけ、親も、たまげたり、自分さ、誉めたり、「自分の息子、精神もいい、度胸もいいから、その一、人助けたり、(い、) 石狩のテトさ行って、みんなさ喜んでもらったりした。」って言って、すごい、親も喜んでもらってから、自分も喜んでから、親たちも大事にしてるうちに、行ったり、行ったり、その自分貰った舅のときさ、行って、その妹に若い者もらって、幸せに暮らすような段取りもしたりして、から、自分らも幸せ、舅になる爺さんらも幸せに、暮らせるようになって、子供も自分らもできる、りなんかして、たいした、年寄りら大事にして幸せにしてから、年寄りらも歳だから、歳いった後に、子供もたくさんできて、幸せに暮らして、親にも喜ばれる、部落の人らにも、喜ばれて、幸せに暮らしたもんだから、っていうこと、子供らさ言って、人間はもう、意地悪しないで、人を助けたり、助けてもらったりして、幸せに暮らすもんだから、精神だけは絶対悪くするもんでないぞっていうこと、子供らさよーく言い残して、死んだもんだから言うって一人の若者がお話ししましたって。

Ainu Oral Literature “Uwepeker”:

A Story of a Man Who Kills a *Huri* that Falls in Love with a Mortal Woman

Yoh-ichi OHTANI

This text is a transcription by the author of a recording of an Ainu story told by Ms. Toshi Ueda (1912-2005) from Penakori, Biratori Town, Saru-gun, Hokkaido. She states that she inherited the story from her sister, Ms. Kimi Kimura (1900-1988). The genre of the story is called *Uwepeker* in Ainu oral literature.

The hero of the story is a single young man who lives on the upper Ishikari River. He sets out on a journey to marry a girl who lives in the middle stretch of the River. When he arrives, she is not there. She has gone to the mouth of the River to work. The chieftain at the river delta is paying unreasonably

low wages to the people working there. The young man reforms the chieftain and is thanked by the villagers. Later, the *Kamuy* (spirit) of a *Huri* in the form of man tries to take the soul of the girl from the middle stretch of the River, but the young man kills it with his bow and arrow. The *Kamuy* of the *Huri* appears to the young man in a dream and apologizes for his bad behavior. The young man marries the girl, has a large family, and lives a happy life in association with the villagers in the middle stretch of the River. The story teaches the Ainu a lesson on the virtue of being kind to one's parents